

# 設定マニュアル

## RadiForce® RX250 RX250-AR

カラー液晶モニター

### 重要

ご使用前には必ずこの設定マニュアルおよび取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。

- コンピュータとの接続から使いはじめるまでの基本説明については取扱説明書をお読みください。
- 最新の設定マニュアルは、当社のWebサイトからダウンロードできます。  
<http://www.eizo.co.jp>



製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の設定マニュアルをご確認ください。

- 1.本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
- 2.本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3.本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- 4.本機の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

# 目次

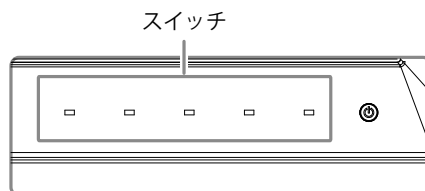
目次	3	● カラー調整値をリセットする	19
● すべての設定内容をリセットする	19		
第1章 基本操作と機能一覧	4	第4章 モニターの品質管理をする	20
1-1. 調整メニューの基本操作方法	4	4-1. キャリブレーションを実行する	20
1-2. 機能一覧	6	● SelfCalibrationを実行する	20
第2章 画面を調整する	7	● SelfCalibrationの結果を閲覧する	20
2-1. 対応解像度	7	4-2. 階調をチェックする	21
2-2. 解像度を設定する	7	● 階調チェックを実行する	21
2-3. カラー調整をする	9	● 階調チェックの結果を閲覧する	21
● 表示モード (CAL Switchモード) を選択する	9	4-3. 寿命予測データを取得する	21
● 詳細な調整をする	10	4-4. 警告表示、QC履歴表示のオン/オフを 設定する	22
● 各モードの調整項目	10	第5章 省電力機能について	23
● ブライトネス (明るさ) を調整する	10	5-1. パワーセーブの設定をする	23
● Hybrid Gamma PXLを有効 / 無効にする	11	5-2. ランプの明るさを調整する	23
● コントラストを調整する	11	5-3. DisplayPortのパワーセーブを設定する	24
● 色温度を調整する	11	5-4. 離席時の省電力モードを設定する	24
● ガンマを調整する	12	第6章 こんなときは	25
● 色合いを調整する	12	6-1. 画面が表示されない場合	25
● 色の濃さを調整する	12	6-2. 画面に関する症状	26
● ゲインを調整する	13	6-3. その他の症状	27
2-4. 表示サイズを切り替える	13	● エラーコード表	28
第3章 モニターの設定をする	14		
3-1. 入力信号を切り替える	14		
3-2. 入力信号の切替方法を設定する	14		
3-3. 使用しない表示モードをスキップする	15		
3-4. 表示言語を設定する	15		
3-5. モニター情報を表示する	15		
3-6. EIZOロゴを表示/非表示にする	16		
3-7. 操作スイッチをロックする	16		
3-8. 画像を回転する	17		
3-9. DDC通信の入力信号を選択する	17		
3-10. DC5V出力の有効/無効を設定する	18		
3-11. 階調表示警告を表示/非表示にする	18		
3-12. Sharpness Recoveryの有効/無効を設定する	18		
3-13. DisplayPort Ver.1.2/1.1を切り替える	19		
3-14. 初期設定に戻す	19		

# 第1章 基本操作と機能一覧

## 1-1. 調整メニューの基本操作方法

### 1. 調整メニューの表示

1. いずれかのスイッチに触れます（ $\odot$ を除く）。



2. ガイドから  $\equiv$  を選択します。



調整メニューが表示されます。

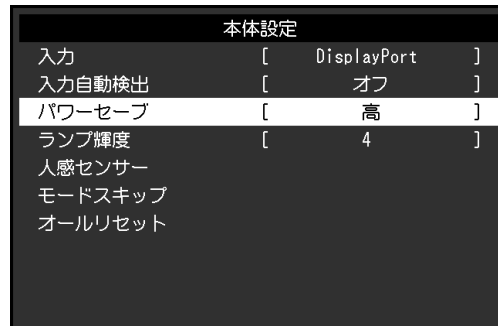


### 2. 調整/設定

1.  $\blacktriangle$   $\blacktriangledown$  で、調整/設定したいメニューを選択し、 $\checkmark$  を選択します。



2. **▲ ▼** で、調整/設定したい項目を選択し、**✓** を選択します。



3. **< >** で、調整/設定し、**✓** を選択して確定します。



### 3. 終了

- ✕** を数回選択し、調整メニューを終了します。

## 1-2. 機能一覧

調整メニューの項目一覧表です。

メインメニュー	項目	参照先
CAL Switch Mode※1	モード	「2-3. カラー調整をする」 (P.9)
	ブライトネス	
	Hybrid Gamma PXL	
	コントラスト	
	色温度	
	ガンマ	
	色合い	
	色の濃さ	
	ゲイン	
	リセット	
RadiCS SelfQC	SelfCalibration	「4-1. キャリブレーションを実行する」 (P.20)
	階調チェック	「4-2. 階調をチェックする」 (P.21)
	LEA	「4-3. 寿命予測データを取得する」 (P.21)
	設定	「4-4. 警告表示、QC履歴表示のオン/オフを設定する」 (P.22)
信号設定	画面拡大	「2-4. 表示サイズを切り替える」 (P.13)
本体設定	入力	「3-1. 入力信号を切り替える」 (P.14)
	入力自動検出	「3-2. 入力信号の切替方法を設定する」 (P.14)
	パワーセーブ	「5-1. パワーセーブの設定をする」 (P.23)
	ランプ輝度	「5-2. ランプの明るさを調整する」 (P.23)
	人感センサー	「5-4. 離席時の省電力モードを設定する」 (P.24)
	モードスキップ	「3-3. 使用しない表示モードをスキップする」 (P.15)
	オールリセット	「3-14. 初期設定に戻す」 (P.19)
言語選択		「3-4. 表示言語を設定する」 (P.15)
インフォメーション		「3-5. モニター情報を表示する」 (P.15)
管理者設定	起動ロゴ	「3-6. EIZOロゴを表示/非表示にする」 (P.16)
	操作ロック	「3-7. 操作スイッチをロックする」 (P.16)
	画像回転	「3-8. 画像を回転する」 (P.17)
	DDC	「3-9. DDC通信の入力信号を選択する」 (P.17)
	DC5V Output	「3-10. DC5V出力の有効/無効を設定する」 (P.18)
	DP Power Save	「5-3. DisplayPortのパワーセーブを設定する」 (P.24)
	階調表示警告	「3-11. 階調表示警告を表示/非表示にする」 (P.18)
	Sharpness Recovery	「3-12. Sharpness Recoveryの有効/無効を設定する」 (P.18)
	DisplayPort バージョン	「3-13. DisplayPort Ver.1.2/1.1を切り替える」 (P.19)

※1 「CAL Switch Mode」で調整/設定できる機能はモードにより異なります（「各モードの調整項目」 (P.10) 参照）。

## 第2章 画面を調整する

### 2-1. 対応解像度

この製品の対応解像度については、取扱説明書「対応解像度」を参照してください。

### 2-2. 解像度を設定する

#### Windows 10の場合

1. デスクトップ上のアイコンがない場所で、右クリックします。
2. 表示されるメニューから「ディスプレイ設定」をクリックします。
3. 「ディスプレイのカスタマイズ」ダイアログボックスで「ディスプレイの詳細設定」をクリックします。
4. モニターを選択し、「解像度」のプルダウンメニューから解像度を選択します。
5. 「適用」ボタンをクリックします。
6. 確認のダイアログボックスが表示されるので、「変更の維持」ボタンをクリックします。

#### Windows 8.1 / Windows 8 / Windows 7の場合

1. Windows 8.1 / Windows 8 の場合、スタート画面から「デスクトップ」のタイルをクリックして、デスクトップを表示します。
2. デスクトップ上のアイコンがない場所で、右クリックします。
3. 表示されるメニューから「画面の解像度」をクリックします。
4. モニターを選択し、「解像度」のプルダウンメニューから解像度を選択します。
5. 「OK」ボタンをクリックします。
6. 確認のダイアログボックスが表示されるので、「変更を維持する」ボタンをクリックします。

#### 参考

- 表示される文字やその他の項目のサイズを変更する場合は、コントロールパネルから「ディスプレイ」を選び、拡大率を変更してください。

#### Windows Vistaの場合

1. デスクトップ上のアイコンがない場所で、右クリックします。
2. 表示されるメニューから「個人設定」をクリックします。
3. 「個人設定」ウィンドウで「画面の設定」をクリックします。
4. 「画面の設定」ダイアログボックスで「モニタ」タブを選択し、「解像度」の欄から変更したい解像度を選択します。
5. 「OK」ボタンをクリックします。
6. 確認のダイアログボックスが表示されるので、「はい」ボタンをクリックします。

## Mac OS X 10.8以降の場合

1. アップルメニューの「システム環境設定」をクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログボックスが表示されるので、「ディスプレイ」をクリックします。（Mac OS X 10.8の場合は、「ハードウェア」欄から「ディスプレイ」をクリックします。）。
3. 表示されたダイアログボックスで「ディスプレイ」タブを選択し、「解像度」から「変更」を選択します。
4. 設定可能な解像度の一覧が表示されるので、一覧から解像度を選択します。目的の解像度が一覧に表示されない場合は、キーボードのOptionキーを押しながら「変更」を選択してください。
5. 選択したらすぐに画面が変更されるので、適切な解像度に設定したらウィンドウを閉じます。

## Mac OS X 10.7の場合

1. アップルメニューの「システム環境設定」をクリックします。
2. 「システム環境設定」ダイアログボックスが表示されるので、「ハードウェア」欄の「ディスプレイ」をクリックします。
3. 表示されたダイアログボックスで「ディスプレイ」タブを選択し、「解像度」の欄から解像度を選択します。
4. 選択したらすぐに画面が変更されるので、適切な解像度に設定したらウィンドウを閉じます。



## 2-3. カラー調整をする

### ● 表示モード（CAL Switchモード）を選択する

モニターの用途に応じた表示モードに切り替えることができます。

#### モードの種類

○：キャリブレーション可能

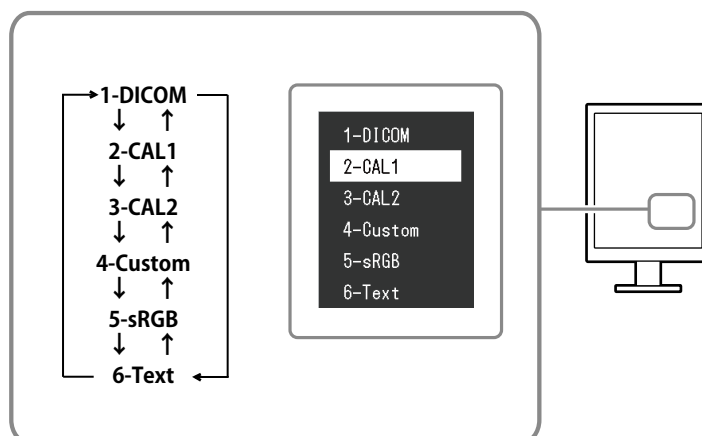
モード	目的	
1-DICOM	DICOM Part 14 に準拠している階調特性で表示することができます。	○
2-CAL1	キャリブレーションソフトウェアによる調整状態で表示します。	○
3-CAL2		
4-Custom	好みに応じた設定をおこなう際に選択します。	—
5-sRGB	sRGB対応の周辺機器と色を合わせる場合に適しています。	—
6-Text	文書作成や表計算などの文字表示に適しています。	—

#### 設定方法

1. いずれかのスイッチに触れます（**0**を除く）。
2. ガイドから **0** を選択します。

モードメニューが右下に表示されます。

例



3. **0** を選択するたびにモードが順に切り替わり表示されます。  
モードメニュー表示中は、**▲** または **▼** を選択してモードを切り替えることもできます。

#### 参考

- ・ 調整メニューとモード名を同時に表示させることはできません。

## ● 詳細な調整をする

調整メニューの「CAL Switch Mode」で、モードごとに独立したカラー調整の設定、保存ができます。

### 注意

- ・ 製品内部の電気部品の動作が安定するのに、約15分かかりますので、モニターの調整は電源を入れて15分以上経過してからおこなってください。
- ・ モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色を合わせるときは、視覚的に判断しながら微調整してください。

### 参考

- ・ 「%」、「K」表示は調整の目安としてご利用ください。

## ● 各モードの調整項目

モードの種類により、調整できる機能が異なります。（調整/設定できない機能は選択できません。）

○：調整可 ー：調整不可

機能名	CAL Switch Mode					
	1-DICOM	2-CAL1	3-CAL2	4-Custom	5-sRGB	6-Text
ブライツネス	○	○	○	○	○	○
Hybrid Gamma PXL	○	○	○	ー	ー	ー
コントラスト	ー	ー	ー	○	○	○
色温度	ー	ー	ー	○	○	○
ガンマ	ー	ー	ー	○	○	○
色合い	ー	ー	ー	○	○	○
色の濃さ	ー	ー	ー	○	○	○
ゲイン	ー	ー	ー	○	○	○
リセット	○	○	○	○	○	○

## ● ブライツネス（明るさ）を調整する

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

### 設定範囲

0～100%

### 設定方法

1. 調整メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「CAL Switch Mode」で「ブライツネス」を選択し、を選択します。
3. またはで設定します。
4. 設定が完了したらを選択します。

### 参考

- ・ ブライツネスが100%でも画面が暗いと感じた場合は、コントラスト調整をおこなってください。

## ● Hybrid Gamma PXLを有効 / 無効にする

Hybrid Gamma PXL機能を有効にすることで、同一画面内のモノクロとカラーをピクセルごとに自動的に判別し、カラー画像に対してカラー画像表示用のガンマ値で表示することができます。

### 設定値

オン、オフ

### 設定方法

1. 設定メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「Hybrid Gamma PXL」を選択し、を選択します。
3. 「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。

## ● コントラストを調整する

ビデオ信号のレベルを変化させて、画面の明るさを調整します。

### 設定範囲

0~100%

### 設定方法

1. 調整メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「CAL Switch Mode」で「コントラスト」を選択し、を選択します。
3.  または  で設定します。
4. 設定が完了したら  を選択します。

---

#### 参考

- 100%ですべての色階調を表示します。
  - 画面の明るさは、初めに、階調特性を損なうことのないブライトネスで調整することをお勧めします。
  - コントラスト調整は次のような場合に使用してください。
    - ブライトネスが0%でも画面が明るいと感じたとき。（コントラストを100%以下に設定します。）
- 

## ● 色温度を調整する

色温度を調整します。

通常「白」または「黒」の色合いを数値的に表現するとき用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。

炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。また、色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。

### 設定範囲

Native、6000K~15000K（100K単位）、sRGB、User

### 設定方法

1. 調整メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「CAL Switch Mode」で「色温度」を選択し、を選択します。
3.  または  で設定します。
4. 設定が完了したら  を選択します。

---

#### 参考

- 「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です（「ゲインを調整する」（P.13）参照）。
  - 「Native」でパネル本来の色（ゲインの値はRGB各100%）になります。
  - ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。
-

## ● ガンマを調整する

ガンマ値を調整します。モニターは入力される信号によって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。

### 設定範囲

1.6～2.7、sRGB

### 設定方法

1. 調整メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「CAL Switch Mode」で「ガンマ」を選択し、を選択します。
3.  または  で設定します。
4. 設定が完了したら  を選択します。

---

### 注意点

- Hybrid Gamma PXLがオンの場合、設定内容に関係なくカラー画像を表示するピクセルはカラー画像表示用のガンマ値に固定されます。
- 

## ● 色合いを調整する

色合いを調整します。

### 設定範囲

-100～100

### 設定方法

1. 調整メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「CAL Switch Mode」で「色合い」を選択し、を選択します。
3.  または  で設定します。
4. 設定が完了したら  を選択します。

---

### 注意点

- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
- 

## ● 色の濃さを調整する

色の濃さを調整します。

### 設定範囲

-100～100

### 設定方法

1. 調整メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「CAL Switch Mode」で「色の濃さ」を選択し、を選択します。
3.  または  で設定します。
4. 設定が完了したら  を選択します。

---

### 注意点

- この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
- 

### 参考

- 最小値 (-100) で白黒の画面となります。
-

## ● ゲインを調整する

色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色調を変更することができます。

### 設定範囲

0～100%

### 設定方法

1. 調整メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、を選択します。
2. 「CAL Switch Mode」で「ゲイン」を選択し、を選択します。
3. 「Red」、「Green」、「Blue」の中から調整する色を選択し、を選択します。
4.  または  で設定します。
5. 設定が完了したら  を選択します。

### 注意点

- ・この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

### 参考

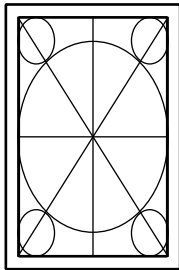
- ・色温度の値に応じてゲインの値が変わります。
- ・ゲインの値を変更すると、色温度は「User」になります。

## 2-4. 表示サイズを切り替える

推奨解像度以外の解像度は、自動的に画面全体に拡大されますが、「信号設定」の「画面拡大」機能を使用して表示サイズを切り替えることができます。

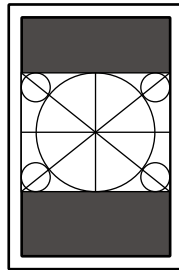
例：1024×768を表示した場合（グラフィックスボードの設定：縦表示）

フルスクリーン



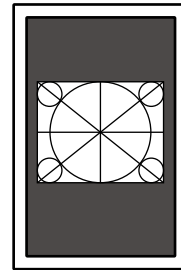
(1200×1600)

アスペクト比固定



(1200×900)

等倍



(1024 × 768)

### 設定方法

1. 調整メニューの「信号設定」を選択し、を押します。
2. 「信号設定」で「画面拡大」を選択し、を押します。
3.  または  で「フルスクリーン」/「アスペクト比固定」/「等倍」のいずれかを選択します。

設定	機能
フルスクリーン	画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率は縦、横一定ではないため、表示画像に歪みが見られる場合があります。
アスペクト比固定	画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率を縦、横一定にするため、水平、垂直のどちらかの方向に画像が表示されない部分が残る場合があります。
等倍	設定した解像度のままの大きさで画像が表示されます。

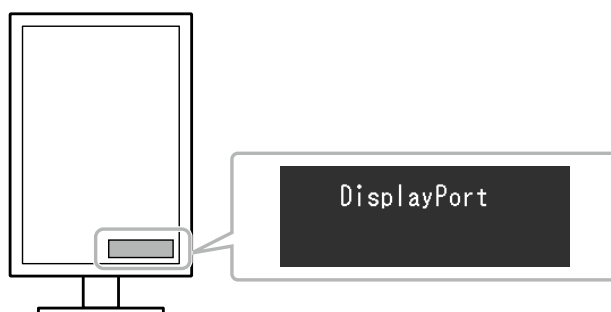
4. 設定が完了したら  を押します。

## 第3章 モニターの設定をする

### 3-1. 入力信号を切り替える

#### 設定方法

1. 調整メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「本体設定」で「入力」を選択し、を選択します。
3.  または  で「DVI」 / 「DisplayPort」のいずれかを選択します。
4. 設定が完了したら  を選択します。  
選択された入力ポート名が表示されます。



### 3-2. 入力信号の切替方法を設定する

設定	機能
オン	信号が入力されているコネクタを自動的に判別して画面を表示することができます。コンピュータの電源が切れたり、省電力モードに入ると、自動的に他の信号を表示します。
オフ	信号が入力されているかどうかにかかわらず、選択しているコネクタからの信号が表示されます。この場合は、「3-1. 入力信号を切り替える」(P.14)を参照して、表示する入力信号を選択してください。

#### 設定方法

1. 調整メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「本体設定」で「入力自動検出」を選択し、を選択します。
3.  または  で「オン」または「オフ」を選択します。
4. 設定が完了したら  を選択します。

#### 参考

- ・ 主電源を切り/入りしたときは、この機能の設定に関係なく、信号が自動的に検出されます。

### 3-3. 使用しない表示モードをスキップする

モードを選択するときに、特定のモードをスキップすることができます。  
表示するモードが限定されている場合や、表示状態をむやみに変更したくない場合にご利用ください。

#### 設定方法

1. 調整メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「本体設定」で「モードスキップ」を選択し、を選択します。
3. またはで設定を変更するモードを選択し、を選択します。
4. またはで「スキップ」または「-」を選択します。
5. 設定が完了したらを選択します。

#### 注意点

- ・すべてのモードを無効にすることはできません。1つ以上のモードを「-」に設定してください。

### 3-4. 表示言語を設定する

調整メニューやメッセージの表示言語が選択できます。

#### 選択できる言語

英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、スウェーデン語、日本語、中国語（簡体）、中国語（繁体）

#### 設定方法

1. 調整メニューの「言語選択」を選択し、を選択します。
2. またはで言語を選択します。
3. 設定が完了したらを選択します。

### 3-5. モニター情報を表示する

現在表示している入力信号とこの製品に関する情報を表示します。

#### 設定方法

1. 調整メニューの「インフォメーション」を選択し、を選択します。  
入力信号情報、製品名、製造番号、ファームウェアバージョン、使用時間などが表示されます。  
(例)

インフォメーション	
RadiForce RX250	S/N: 12345678
バージョン	*****-*****-*****
使用時間 (h)	製品: 1234567890 バックライト:1234567890
資産管理番号	*****
入力信号	DisplayPort 1280 X 1024 fH: 63.79 kHz fV: 59.84 Hz fD: 108.0 MHz




#### 注意点

- ・工場での検査などのため、購入時に使用時間が「0」ではない場合があります。

## 3-6. EIZOロゴを表示/非表示にする

EIZOロゴの表示/非表示の切り替えができます。




### 設定方法


1. に触れて、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ ()に触れながら に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「起動ロゴ」を選択し、を選択します。
4.  または  で「オン」または「オフ」を選択し、を選択します。
5.  または  で「完了」を選択します。
6. を押します。

## 3-7. 操作スイッチをロックする

調整/設定した状態を変更できないようにします。

### 設定方法

1. に触れて、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ ()に触れながら に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「操作ロック」を選択し、を選択します。
4.  または  で「オフ」/「メニュー」/「オール」のいずれかを選択し、を選択します。

設定項目	ロックできるスイッチ
オフ (初期設定)	なし (すべてのスイッチが有効)
メニュー	調整メニューによる調整/設定
オール	 を除くすべてのスイッチ

5.  または  で「完了」を選択します。
6. を選択します。










## 3-8. 画像を回転する

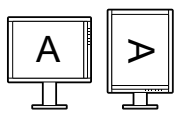

ご使用の環境にあわせて画像の表示方向を変更することができます。

### 注意点

- ・グラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。
- ・コンピュータが起動してなくても設定することができます。

### 設定方法








1.  に触れて、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「画像回転」を選択し、 を選択します。
4.  または  で「縦置き」または「横置き」を選択し、 を選択します。
5.  または  で「完了」を選択します。
6. 設定が完了したら  を選択します。

モニター設置方向	表示例
横置き 横型設置時に選択します。	
縦置き 縦型設置時に選択します。	

## 3-9. DDC通信の入力信号を選択する

DDC通信をどの入力信号で使用するかを設定します。通常は「自動」でご使用ください。DDC通信を使用すると、USBケーブルを接続せずにRadiCS LEが使用できます。（DDC/CI通信とは異なります。）

### 設定方法

1.  に触れて、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「DDC」を選択し、 を選択します。
4.  または  で「オフ」/「DVI」/「DisplayPort」/「自動」のいずれかを選択し、 を選択します。
5.  または  で「完了」を選択します。
6.  を選択します。

### 参考

- ・「自動」を選択した場合、どの入力信号でもDDC通信が使用できます。

## 3-10.DC5V出力の有効/無効を設定する

DC5V出力の有効/無効を切り替えます。通常はオフでご使用ください。

### 設定方法

1. **⏻** を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ (**⏻**) に触れながら **⏻** に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「DC5V Output」を選択し、**✔** を選択します。
4. **◀** または **▶** で「オン」または「オフ」を選択し、**✔** を選択します。
5. **▲** または **▼** で「完了」を選択します。
6. **✔** を選択します。

## 3-11.階調表示警告を表示/非表示にする

推奨解像度でDisplayPort信号を入力している場合、6bit（64階調）の信号を検知すると、階調表示エラーメッセージを表示することができます。エラーメッセージが表示された場合は、モニターの主電源を入れ直してください。

### 注意点

- 通常は「オン」でご使用ください（出荷設定は「オン」です）。
- 6bit（64階調）で使用する場合のみ、「オフ」にしてください。

### 設定方法

1. **⏻** を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ (**⏻**) に触れながら **⏻** に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「階調表示警告」を選択し、**✔** を選択します。
4. **◀** または **▶** で「オン」または「オフ」を選択し、**✔** を選択します。
5. **▲** または **▼** で「完了」を選択します。
6. **✔** を選択します。

## 3-12.Sharpness Recoveryの有効/無効を設定する

画像の鮮鋭化の有効/無効を切り替えます。有効にすると画像の鮮鋭感が向上します。

### 設定方法

1. **⏻** を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ (**⏻**) に触れながら **⏻** に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「Sharpness Recovery」を選択し、**✔** を選択します。
4. **◀** または **▶** で「オン」または「オフ」を選択し、**✔** を選択します。
5. **▲** または **▼** で「完了」を選択します。
6. **✔** を選択します。

### 注意点

- 設定の切り替え後は、医療規格/ガイドラインに基づいて目視検査を実施してください。








## 3-13.DisplayPort Ver.1.2/1.1を切り替える

DisplayPortのバージョンを切り替えます。

### 注意点

- デイジーチェーン接続する場合は、Ver.1.2でご使用ください。
- コンピュータをDisplayPortコネクタに接続している場合に、コンピュータによってはDisplayPortのバージョンが異なり、画面が表示されないことがあります。その場合は、この設定を変更してみてください。

### 設定方法

1.  を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら  に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「DisplayPortバージョン」を選択し、 を選択します。
4.  または  で「1.1」または「1.2」を選択し、 を選択します。
5.  または  で「完了」を選択します。
6.  を選択します。

## 3-14.初期設定に戻す

リセットには、カラー調整のみを初期設定に戻す機能と、すべての設定内容を初期設定に戻す機能の2種類があります。

### 注意点

- リセット実行後は、リセット前の状態に戻すことはできません。



### 参考

- 初期値については、取扱説明書「主な初期設定値」を参照してください。

### ● カラー調整値をリセットする

現在選択しているモードのカラー調整値のみを初期設定に戻します。

#### 設定方法



1. 調整メニューの「CAL Switch Mode」を選択し、 を選択します。
2. 「CAL Switch Mode」で「リセット」を選択し、 を選択します。
3.  または  で「OK」を選択します。
4.  を選択します。

カラー調整値が初期設定になります。

### ● すべての設定内容をリセットする

すべての設定内容を初期設定に戻します（「入力」、「管理者設定」メニューは除く）。

#### 設定方法

1. 調整メニューの「本体設定」を選択し、 を選択します。
2. 「本体設定」で「オールリセット」を選択し、 を選択します。
3.  または  で「OK」を選択します。
4.  を選択します。

「入力」および「管理者設定」メニューを除くすべての設定内容が初期設定になります。

## 第4章 モニターの品質管理をする

この製品は、Integrated Front Sensorを内蔵しており、キャリブレーションや階調チェックをモニター単独で定期的に行うことができます。

### 参考

- ・医療規格に対応した高度な品質管理をおこないたい場合には、別売のモニター品質管理ソフトウェアキット「RadiCS UX1」を使用してください。
- ・Integrated Front Sensorの測定結果を基準としたいUX1センサーの測定結果に合わせたい場合は、RadiCS/RadiCS LEを使用してコレレーションを実行してください。定期的なコレレーションにより、Integrated Front SensorはUX1と同等の測定精度を維持することができます。詳細は、RadiCS/RadiCS LE取扱説明書を参照してください。
- ・キャリブレーションの調整目標および階調チェックの判定値、スケジュールは、「RadiCS」で設定できます。
- ・キャリブレーションの調整目標、スケジュールは、付属のソフトウェア「RadiCS LE」でも設定できます。詳細は、「RadiCS LE取扱説明書」（CD-ROM内）を参照してください。

### 4-1. キャリブレーションを実行する

SelfCalibrationを実行し、最新の結果を閲覧できます。また、RadiCS/RadiCS LEでスケジュールを設定した場合には、次回の実行スケジュールを表示します。

#### ● SelfCalibrationを実行する

##### 設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「SelfCalibration」を選択し、を選択します。
3.  または  で「実行」を選択します。
4. 設定が完了したら  を選択します。  
SelfCalibrationが実行されます。

##### 注意点

- ・SelfCalibration実行中にコンピュータの電源が切られる、または入力信号が切り替わった場合、実行がキャンセルされます。
- ・SelfCalibration実行後は、実際の使用環境と同じ室温や照度で階調チェックを実行してください。

#### ● SelfCalibrationの結果を閲覧する

##### 注意点

- ・「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に閲覧できます（「4-4. 警告表示、QC履歴表示のオン/オフを設定する」（P.22）参照）。

##### 設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「SelfCalibration」を選択し、を選択します。
3.  または  で「結果閲覧」を選択します。
4.  または  で「DICOM」/「CAL1」/「CAL2」のいずれかを選択します。
5. 設定が完了したら  を選択します。  
SelfCalibrationの結果（最大エラー率、前回実行日、エラーコードなど）が表示されます。

## 4-2. 階調をチェックする

階調チェックを実行し、最新の結果を閲覧できます。また、RadiCSでスケジュールを設定した場合には、次回の実行スケジュールを表示します。

### ● 階調チェックを実行する

#### 注意点

- ・ 実際の使用環境と同じ温度や照度で階調チェックを実行してください。

#### 設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「階調チェック」を選択し、を選択します。
3.  または  で「実行」を選択します。
4. 設定が完了したら  を選択します。  
階調チェックが実行されます。

### ● 階調チェックの結果を閲覧する

#### 注意点

- ・ 「QC履歴表示」を「オン」に設定した場合に閲覧できます。

#### 設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「階調チェック」を選択し、を選択します。
3.  または  で「結果閲覧」を選択します。
4.  または  で「DICOM」 / 「CAL1」 / 「CAL2」のいずれかを選択します。
5. 設定が完了したら  を選択します。  
過去5回までの階調チェックの結果（合格/不合格/中止/エラー）が表示されます。

## 4-3. 寿命予測データを取得する

モニターの寿命を予測するのに必要なデータを取得することができます。

#### 参考

- ・ データは100時間ごとに収集されます。
- ・ 「パワーセーブ」を選択した場合、100時間経過後、パワーセーブに移行するとき、または電源が切れるときにデータが収集されます。
- ・ 「定期測定」または「パワーセーブ」を選択した場合、データ収集時にIntegrated Front Sensorが稼働して測定をおこないます。「オフ」を選択した場合は、データ収集時にIntegrated Front Sensorを使った測定はおこないません。
- ・ 次のタイミングでデータが保存されます。  
- 500、1000、2000、4000、7000、10000、15000、20000、25000、30000 時間

#### 設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「LEA」を選択し、を選択します。
3.  または  で「測定時期」を選択します。
4.  または  で「パワーセーブ」 / 「定期測定」 / 「オフ」のいずれかを選択します。
5. 設定が完了したら  を選択します。

## 4-4. 警告表示、QC履歴表示のオン/オフを設定する

階調チェックの結果がNGだった場合の警告表示、QC履歴表示のオン/オフを設定することができます。

### 設定方法

1. 調整メニューの「RadiCS SelfQC」を選択し、を選択します。
2. 「RadiCS SelfQC」で「設定」を選択し、を選択します。
3.  または  で「警告表示」または「QC履歴表示」を選択します。
4.  または  で「オン」または「オフ」を選択します。
5. 設定が完了したら  を選択します。

# 第5章 省電力機能について

## 5-1. パワーセーブの設定をする

コンピュータの状態と連動してモニターを省電力モードにする/しないの切り替えができます。省電力モードに移行すると画面を非表示にします。

### 注意点

- ・モニターを使用しない時は、主電源を切るか、電源プラグを抜くことで電力が消費されなくなります。
- ・モニターが省電力モードの場合、またモニターの電源スイッチで電源を切っても、USBアップストリームポートおよびUSBダウンストリームポートに接続されている機器が動作します。そのためモニターの消費電力は、省電力モードであっても接続される機器によって変化します。
- ・パワーセーブ移行の5秒前になると予告メッセージが表示されます。

### 設定方法

1. 調整メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「本体設定」で「パワーセーブ」を選択し、を選択します。
3.  または  で「オフ」または「低」/「高」のいずれかを選択します。

設定	機能
低	バックライト最小点灯状態にします。パワーセーブから復帰した後、動作が安定するまでの時間を短くすることができます。
高	バックライトを消します。最も省電力効果が高くなります。

4. 設定が完了したら  を選択します。

### 省電力の流れ

コンピュータの設定に連動し5秒後に省電力モードに入ります。

コンピュータの状態	モニターの状態	電源ランプ
オン	オペレーションモード	緑
省電力モード	省電力モード	橙

### 参考

- ・ DVI信号入力時：「DVI DMPM」に準拠しています。
- ・ DisplayPort信号入力時：「DisplayPort Standard V1.2a」に準拠しています。

## 5-2. ランプの明るさを調整する

画面表示時の電源ランプ（緑）の輝度を設定することができます（初期設定では、電源ランプは電源を入れたときに点灯し、4に設定されています）。

### 設定範囲

1～7、オフ

### 設定方法

1. 調整メニューの「本体設定」を選択し、を選択します。
2. 「本体設定」で「ランプ輝度」を選択し、を選択します。
3.  または  で設定します。
4. 設定が完了したら  を選択します。



## 5-3. DisplayPortのパワーセーブを設定する

コンピュータをDisplayPortコネクタに接続している場合、電源のオフ/オン時、および省電力モードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれることがあります。その場合は、この機能を「オフ」に設定してください。

### 設定方法

1. を選択して、モニターの電源を切ります。
2. 一番左側のスイッチ () に触れながら に2秒以上触れてモニターの電源を入れます。
3. 「管理者設定」で「DP Power Save」を選択し、 を選択します。
4. または で「オン」または「オフ」を選択し、 を選択します。
5. 設定が完了したら  を選択します。

## 5-4. 離席時の省電力モードを設定する

人感センサーをオンに設定すると、モニター正面のセンサーが人の動きを検知します。人がモニターから離れると、モニターは自動的に省電力モードに移行し、画面を非表示にして消費電力を低減します。再度人が近づくと、省電力モードから復帰して画面を表示します。モニターの使用環境や使用者の動作量に応じて、感度、省電力モードに移行するまでの時間を設定できます。

### 参考

- ・省電力モードへの移行時には、移行をお知らせするメッセージが表示されます。

### 注意点

- ・「RadiCS SelfQC」実行時には使用できません。

### 設定方法

1. 調整メニューの「本体設定」を選択し、 を選択します。
2. 「本体設定」で「人感センサー」を選択し、 を選択します。
3. または で「オン」または「オフ」を選択します。
4. 設定が完了したら  を選択します。
5. 「オン」を選択した場合、詳細を設定します。

項目	設定範囲	詳細
検知時間	5、30sec 1、3、5、10、15、 30、45、60min	人がモニターから離れてから、「離席中」というメッセージが表示されるまでの時間を設定します。メッセージが表示されると、約20秒後にモニターが省電力モードに移行します。
検知感度	レベル5 レベル4 レベル3 レベル2 レベル1	設定値を大きくすると（最大で「レベル5」）、人の小さな動きも敏感に検知し、省電力モードに移行しにくくなります。逆に、設定値を小さくすると（最小で「レベル1」）、人の大きな動きだけを検知し、省電力モードに移行しやすくなります。人感センサーは、モニター正面のセンサーが熱の移動を検知することで機能します。そのため、服装や気温により感度が変化します。意図せず省電力モードに移行したり、省電力モードから復帰する場合には、設定値を変更してみてください。
リセット	-	すべての設定内容を初期設定に戻します。

### 参考





- ・気温が高いときは感度が低くなるため検知感度を大きく、気温が低いときは感度が高くなるため検知感度を小さく設定するとより快適に使用いただけます。



# 第6章 こんなときは

症状に対する処置をおこなっても解消されない場合は、販売店またはEIZOサポートにご相談ください。

## 6-1. 画面が表示されない場合

症状	原因と対処方法
<b>1. 画面が表示されない</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>電源ランプが点灯しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源コードは正しく接続されていますか。</li> <li>主電源を入れてください。</li> <li>⏻に触れてください。</li> <li>主電源を切り、再度電源を入れてみてください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>電源ランプが点灯：緑色</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調整メニューの「ブライツネス」、「コントラスト」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（「<a href="#">詳細な調整をする</a>」(P.10) 参照）。</li> <li>主電源を切り、再度電源を入れてみてください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>電源ランプが点灯：橙色</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入力信号を切り替えてみてください（「<a href="#">3-1. 入力信号を切り替える</a>」(P.14) 参照）。</li> <li>マウス、キーボードを操作してみてください。</li> <li>コンピュータの電源は入っていますか。</li> <li>人感センサーを「オン」に設定している場合、省電力モードに移行している可能性があります。モニターに近づいてみてください。</li> <li>DisplayPort信号を入力する場合、信号ケーブルが  に接続されていますか。  は、デジチェーン接続時の出力に使用します。</li> <li>主電源を切り、再度電源を入れてみてください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>電源ランプが点滅：橙色、緑色</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社指定の信号ケーブルで接続してください。その後、主電源を切り、再度電源を入れてみてください。</li> <li>DisplayPortに接続している場合は、DisplayPortのバージョンを1.1に切り換えてみてください（「<a href="#">3-13. DisplayPort Ver.1.2/1.1を切り替える</a>」(P.19) 参照）。</li> </ul>
<b>2. 次のようなメッセージが表示される</b>	<p>この表示はモニターが正常に機能していても、信号が正しく入力されないときに表示されます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>信号が入力されていない場合の表示です。 例：</li> </ul> <div data-bbox="252 1391 655 1538" data-label="Image"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータによっては電源を入れても信号がすぐに出られないため、左のような画面が表示されることがあります。</li> <li>コンピュータの電源は入っていますか。</li> <li>信号ケーブルは正しく接続されていますか。</li> <li>入力信号を切り替えてみてください（「<a href="#">3-1. 入力信号を切り替える</a>」(P.14) 参照）。</li> <li>DisplayPortに接続している場合は、DisplayPortのバージョンを1.1に切り換えてみてください（「<a href="#">3-13. DisplayPort Ver.1.2/1.1を切り替える</a>」(P.19) 参照）。</li> <li>DisplayPort信号を入力する場合、信号ケーブルが  に接続されていますか。  は、デジチェーン接続時の出力に使用します。</li> <li>主電源を切り、再度電源を入れてみてください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>入力されている信号が周波数仕様範囲外であることを示す表示です。（範囲外の周波数はマゼンタで表示されます。） 例：</li> </ul> <div data-bbox="252 1881 655 2029" data-label="Image"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取扱説明書「<a href="#">対応解像度</a>」参照）。</li> <li>コンピュータを再起動してみてください。</li> <li>グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。</li> </ul>

## 6-2. 画面に関する症状

症状	原因と対処方法
1. 画面が明るすぎる/暗すぎる	<ul style="list-style-type: none"><li>調整メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」を調整してください。（液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、EIZOサポートにご相談ください。）</li></ul>
2. 文字がぼやけて見える	<ul style="list-style-type: none"><li>コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（取扱説明書「対応解像度」参照）。</li></ul>
3. 残像が現れる	<ul style="list-style-type: none"><li>この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。</li><li>長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。</li></ul>
4. 画面に緑、赤、青、白のドットが残るまたは点灯しないドットが残る	<ul style="list-style-type: none"><li>これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。</li></ul>
5. 画面上に干渉縞が見られる/パネルを選択した跡が消えない	<ul style="list-style-type: none"><li>画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。</li></ul>

## 6-3. その他の症状

症状	原因と対処方法
1. 調整メニューが表示できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（「3-7. 操作スイッチをロックする」(P.16) 参照）。</li> </ul>
2. モードメニューが表示できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（「3-7. 操作スイッチをロックする」(P.16) 参照）。</li> </ul>
3. 操作スイッチが効かない	<ul style="list-style-type: none"> <li>操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（「3-7. 操作スイッチをロックする」(P.16) 参照）。</li> <li>スイッチ表面に水滴や異物が付着していませんか。表面を軽くふき、乾いた手で再度スイッチに触れてみてください。</li> <li>手袋を装着していませんか。手袋を外した、乾いた手で再度スイッチに触れてみてください。</li> </ul>
4. (人感センサー使用時) 離席しても画面が消えない/モニターに近づいても画面が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニターの設置環境を確認してください。次の環境では正しく動作しないことがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 風が当たる場所にモニターを設置していませんか。</li> <li>- モニターの周辺に熱を出す機器がありませんか。</li> <li>- センサーの前に障害物がありませんか。</li> </ul> </li> <li>センサーに汚れが付いていませんか。汚れがある場合は、柔らかい布で取り除いてください。</li> <li>モニターの正面に座っていますか。人感センサーは、モニター正面のセンサーが熱の移動を検知することで機能します。</li> <li>気温が高い場合、省電力モードから復帰しないことがあります。マウス、キーボードを操作しても画面が表示されない場合は、モニターの電源スイッチで電源を切って、再度電源を入れてください。画面が表示されたら、検知感度を大きい値に変更してください（「5-4. 離席時の省電力モードを設定する」(P.24) 参照）。</li> </ul>
5. USBケーブルで接続したモニターが認識されない/モニターに接続しているUSB周辺機器が動作しない	<ul style="list-style-type: none"> <li>USBケーブルは正しく接続されていますか（取扱説明書「USB (Universal Serial Bus) の活用について」参照）。</li> <li>別のUSBポートに差し替えてみてください。別のポートで正しく動作した場合は、EIZOサポートにご相談ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。</li> <li>コンピュータを再起動してみてください。</li> <li>直接コンピュータと周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、お買い求めの販売店またはEIZOサポートにご相談ください。</li> <li>ご使用のコンピュータおよびOSがUSBに対応しているかご確認ください（各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください）。</li> <li>Windowsをご使用の場合、コンピュータに搭載されているBIOSのUSBに関する設定をご確認ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。</li> </ul>

症状	原因と対処方法
6. 使用中に電源が切れ、画面が表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モニターは内部温度が極度に高温になると、自動的に電源が切れます。高温状態のままでは、再度電源スイッチを入れても1分後にまた電源が切れます。</li> <li>・ 設置場所や環境を変え、数分後に再度電源を入れてみてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 通風孔がふさがっていませんか。</li> <li>- 周囲に高温のものが置かれていませんか。</li> </ul> </li> <li>・ 設置場所や環境を変えても電源が入らない場合は、EIZOサポートに連絡してください。</li> </ul> <p><b>注意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モニターの通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しないでください。</li> </ul>
7. Integrated Front Sensorが出たままになっている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主電源を入れなおしてください。</li> </ul>
8. RadiCSの起動に時間がかかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 付属のUSBケーブルを接続してください。</li> </ul>
9. SelfCalibration/階調チェックに失敗する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取扱説明書のエラーコード表を参照してください。</li> <li>・ エラーコード表にないコードが表示された場合は、販売店またはEIZOサポートにご相談ください。</li> </ul> <p><b>注意点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Integrated Front Sensorに触らないでください。</li> </ul>
10. SelfCalibration/階調チェックの履歴に時刻が正しく表示されない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RadiCS/RadiCS LEを使用して「モニター検出」を実行してください。詳細は、RadiCS/RadiCS LE取扱説明書を参照してください。</li> </ul>

## ● エラーコード表

エラーコード	詳細
0***	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SelfCalibration時に発生したエラー</li> </ul>
1***	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 階調チェック時に発生したエラー</li> </ul>
*1**	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DICOMで発生したエラー</li> </ul>
*2**	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CAL1で発生したエラー</li> </ul>
*3**	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CAL2で発生したエラー</li> </ul>
**10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品の最大輝度が目標輝度よりも低くなっている可能性があります。</li> <li>・ 目標輝度を下げてみてください。</li> </ul>
**11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製品の最小輝度が目標最小輝度よりも高くなっている可能性があります。</li> <li>・ 目標最小輝度を上げてみてください</li> </ul>
**34	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ センサーが正しく動作しなかった可能性があります。</li> <li>・ 主電源を切り、数分後に再度電源を入れてからSelfCalibration/階調チェックをやり直してみてください。</li> </ul>
**61	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ センサーが正しく動作しなかった可能性があります。</li> <li>・ センサーの周囲に異物がないか確認してみてください。</li> <li>・ SelfCalibration/階調チェックをやり直してみてください</li> </ul>
**95	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SelfCalibration/階調チェックの実行条件が正しくない可能性があります。</li> <li>・ 実行条件を確認し、設定し直してください。</li> </ul>

